

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671000315
法人名	医療法人 圭裕会
事業所名	グループホーム サンテ・ヴィラージュ
訪問調査日	平成 19年 10月 3日
評価確定日	平成 19年 12月 19日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4671000315号
法人名	医療法人 圭裕会
事業所名	グループ・ホーム サンテ・ヴィラージュ
所在地	鹿児島県指宿市東方8110番地1 (電話) 0993-24-2355
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番~13号
訪問調査日	平成19年10月3日

【情報提供票より】(19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 14日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 12人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 800円	その他の経費(月額)	1日 400円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	9名		
要介護3	1名	要介護4	5名		
要介護5	名	要支援2	1名		
年齢	平均 81.3歳	最低	66歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南記念クリニック 指宿脳神経外科 南歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温泉観光地の郊外にあり、気軽に利用できる地域資源に恵まれた場所に立地しているホームである。24時間医療連携と看護師の常勤で、医療管理ができているため利用者、家族等に安心感がある。職員は明るく、活き活きとコミュニケーションを取りながら入居者と筋力トレーニングや音楽療法を一緒に行っている。結果は、車椅子 歩行器 自己歩行へと改善されて職員の励みや自信に繋がっている。又口腔ケアの徹底により感染症の入居者が皆無だという事もホームの取り組みの特色になっている。入居者の介護度改善は、家族等の喜びとなり、信頼関係が構築されている。運営推進会議やイベントへの参加を通して地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり、ホームの理解者や応援者が増えて地域に支えられている。充実が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価において改善課題とされた項目に対し、重要事項説明書に理念を明示し、市の連絡協議会に加入して市の担当者と連携を図る等具体的な改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解しながら、全職員で自己評価を行い、振り返りや気付きを日々のケアに取り入れて、サービスの質の向上に活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、ホームの活動状況や評価に対する取り組み、行政からの連絡、災害対策について討議されている。災害時における地域の協力体制の構築についても意見を集約し具体的な取り組みを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族来訪時や電話、文書等で家族が気軽に意見や要望が出せるように雰囲気づくりを行っている。出された意見や要望は職員で話し合い、対応できるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入して、地域の行事、福祉大会、畑の草取り、地区の運動会、文化祭等に参加している。近所の人や野菜を持って訪れたり、ボランティアの訪問もあり、地元の方々との交流は盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者がその人らしくふれあいながら生活し、地域との関わりを大切にしたい、理念を開設時に作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホール、玄関、トイレ、事務所等に分りやすい所に掲示している。又職員採用時に理念を伝えて共有し、理念に沿ったケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、行事等に参加している。地域の人々が訪れたり小学校等との交流やボランティアの訪問も受け入れ、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果について、職員全員で話し合い、日々のケアについて、反省や励みにしている。意義を理解し、評価に前向きに取り組む、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表や入居者家族代表に呼びかけ、事業所の取り組み内容など報告し、話し合いの中で意見や要望を受けサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の連絡協議会に参加している。市の担当者には常日頃、事務所のサービスや課題について相談し、助言を貰うなど、協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時に、日頃の様子や暮らしぶり行事の様子など報告し、遠方の家族等にはホーム便りや電話、又毎月の請求書の送付時に文書で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情について意見箱を設置している。来訪時に話しを聞いたり、運営推進会議に参加してもらい意見や要望を表せる機会を設けたり、又電話や文書等でも話し合っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえない離職の場合には、職員採用時にホームの理念やケアの考え方をしっかりと伝え、家族等との関係や入居者の不安がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、資格や経験を考慮し、全職員で交代しながら参加しており、伝達講習も行っている。毎朝のミーティングや毎月のカンファレンスで事例を通した内部研修も行っており、職員の技術や知識の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡評議会に加入しており、研修会に参加している。地域にある他のグループホームとも気軽に連絡相談できる関係を築いており、互いにサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には、ホームの見学に来てもらう等声かけを行い、家族等や本人に会い心身の状況や本人の思いの把握に努め、本人が不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者と寄り添い、人生の先輩として触れ合う事を大切に、昔の行事や戦争体験談等聞き、喜怒哀楽を共にし、入居者から励まされたり教わったりするなど学び支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等や本人から生活歴を聞いたり、日常の会話の中で入居者の表情、行動、発した思いの言葉など一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を把握し職員全員でカンファレンスを行い、出された意見をもとに計画を作成している。家族にも説明を行い同意を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティング・三ヶ月に一回のモニタリング・状態の変化の折に評価を行い定期的に介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族と話し合い、病院受診や退院介助・外泊支援等の他、連携や終末期の家族等への支援など状況に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医による受診を支援している。24時間体制で緊急時に対応できており、病状によっては他の病院を受診できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状態変化時に重度化や終末期について、本人・家族・主事医と連携を取り、事業所としてできる事を説明し、最善の対応ができるように取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新職員は誓約書を取りかわし、勉強会を行っている。入居者の尊厳を大切にする理念に沿って、穏やかな声かけやゆったりとした態度で対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせて、状態や思いに配慮しながら入居者のペースで生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを聞いたり、下ごしらえや配膳等できる事をしてもらおう等一緒に行い、さりげなくサポートしながら食事を共にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週三回の入浴日を決めているが、要望に応じていつでも入浴できる。時間も入浴者に合わせ柔軟に対応し、楽しく温泉入浴をしてもらえるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のそれぞれの趣味やできる事を把握し、家事の手伝い・植木の手入れ・本や新聞の定期購読・音楽療法で歌を唄うなどその人に合わせた支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や外出、買い物等、ホームに閉じこもらない工夫をしている。イベントへの参加やドライブ、季節毎に行われている行事等車椅子でも外出できるよう心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず入居者、来訪者は気軽に出入りしている。夜間は防犯のため施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと夜間想定、初期消火、避難方法など指導をもらいながら関連施設、住民の方々の参加を得て火災訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士のアドバイスを元に献立を作っている。食事量、水分量を記録し、体重や体調変化に留意しながら、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間は明るく温かみがあり、日差しはカーテンやよしずで調整している。中庭にベンチがあり、ホールには懐かしい家具やピアノ、季節を感じる装飾品があり生活感にあふれ居心地よく過ごせるような工夫が随所に見られる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面所やクローゼットが設置されており、位牌やテレビ・ソファ・椅子・鉢植え・タンス等使い慣れた物が持ち込まれている。それぞれ个性的でその人らしく過ごせる配慮がなされている。		